

変更事項の内容

変 更 後	変 更 前
<p>1 地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な方針</p> <p>本県の県内総生産（平成18年度県民経済計算）は2兆8,964億円であり、産業別にみると、サービス業、製造業、卸売・小売業、不動産業の占める割合が高く、この4分野で全体の6割を占めている。また、産業大分類別就業者の構成比（平成17年国勢調査第二次基本集計）は、サービス業が29.3%（従事者123,976人）、卸売・小売業が21.9%（従事者92,659人）、製造業が15.1%（従事者64,056人）となっている。</p> <p>これらの産業を従業者数の規模別にみると、サービス業では94.1%が、卸売・小売業では97.3%が、製造業では85.4%が従業員29人以下の中小企業である。（平成18年事業所・企業統計調査）</p> <p style="text-align: center;">（後 略）</p> <p>2 地域産業資源の内容</p> <p>本県において、その産業資源を活用した中小企業による事業を促進する意義があると考えられる資源は、次表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">（中 略）</p>	<p>1 地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な方針</p> <p>本県の県内総生産（平成17年度県民経済計算）は2兆9,355億円であり、産業別にみると、サービス業、製造業、卸売・小売業、不動産業の占める割合が高く、この4分野で全体の6割を占めている。また、産業大分類別就業者の構成比（平成17年国勢調査第二次基本集計）は、サービス業が29.3%（従事者123,976人）、卸売・小売業が21.9%（従事者92,659人）、製造業が15.1%（従事者64,056人）となっている。</p> <p>これらの産業を_____規模別にみると、サービス業では93.6%が、卸売・小売業では97.3%が、製造業では85.4%が従業員29人以下の中小企業である。_____</p> <p style="text-align: center;">（後 略）</p> <p>2 地域産業資源の内容</p> <p>当県において、その産業資源を活用した中小企業による事業を促進する意義があると考えられる資源は、次表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">（中 略）</p>

変 更 後		変 更 前	
(1) 農林水産物		(1) 農林水産物	
名 称	地域産業資源に係る地域	名 称	地域産業資源に係る地域
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
柿	県内全域	柿	県内全域
きんかん	佐賀市		新規追加
	伊万里市、有田町		
いちご	県内全域	いちご	県内全域
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
レモングラス	佐賀市、多久市、武雄市、小城市	レモングラス	佐賀市、多久市、武雄市、小城市
アイスプラント	佐賀市、唐津市		新規追加
牛	県内全域	牛	県内全域
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
トラフグ	唐津市、玄海町	トラフグ	唐津市、玄海町
クルマエビ	佐賀市、唐津市、伊万里市、鹿島市、小城市、白石町、太良町		新規追加
サザエ	唐津市、玄海町	サザエ	唐津市、玄海町
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
鎮西のあわび	唐津市	鎮西のあわび	唐津市
サルボウ(モガイ)	佐賀市、鹿島市、小城市、白石町、太良町		新規追加

変 更 後		変 更 前	
(2) 鉱工業品又は鉱工業の生産に係る技術		(2) 鉱工業品又は鉱工業の生産に係る技術	
名 称	地域産業資源に係る地域	名 称	地域産業資源に係る地域
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
名尾手漉和紙	佐賀市	名尾手漉和紙	佐賀市
鍋野手漉和紙	嬉野市		新規追加
鍋島緞通	佐賀市	鍋島緞通	佐賀市
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
弓野人形	武雄市	弓野人形	武雄市
温泉水 (嬉野温泉)	嬉野市		新規追加
温泉水 (武雄温泉)	武雄市		
温泉水 (古湯温泉)	佐賀市		
温泉水 (熊の川温泉)	佐賀市		
小城羊羹	佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、白石町	小城羊羹	佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、白石町
丸ぼうろ	県内全域	丸ぼうろ	県内全域
白玉饅頭	佐賀市		新規追加
神埼そうめん	神埼市	神埼そうめん	神埼市
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
粕漬け	県内全域	粕漬け	県内全域
ガニ漬 (がん漬)	佐賀市、鹿島市、小城市、白石町、太良町		新規追加
清酒 (日本酒)	県内全域	清酒 (日本酒)	県内全域
(後 略)	(後 略)	(後 略)	(後 略)

変 更 後		変 更 前	
(3) 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源		(3) 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源	
名 称	地域産業資源に係る地域	名 称	地域産業資源に係る地域
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
西溪公園	多久市	西溪公園	多久市
大興善寺	基山町		新規追加
切木ぼたん	唐津市		新規追加
大楠	武雄市	大楠	武雄市
(中 略)	(中 略)	(中 略)	(中 略)
脊振山系(天山、脊振・北山、川上・金立の各県立自然公園)	佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町	脊振山系(天山、脊振・北山、川上・金立の各県立自然公園)	佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町
三瀬そば街道	佐賀市		新規追加
長崎街道	佐賀市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、大町町、江北町、白石町、太良町	長崎街道	佐賀市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、大町町、江北町、白石町、太良町
(後 略)	(後 略)	(後 略)	(後 略)

変 更 後	変 更 前
<p>3 地域産業資源を用いて行う地域産業資源活用事業を促進することにより当該地域産業資源に係る地域の経済の活性化を推進する方策</p> <p>(中 略)</p> <p>(1) 個別地域産業資源に関する施策</p> <p>① 農林水産物の振興施策</p> <div data-bbox="316 927 536 981" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 20px auto; width: fit-content;">削 除</div>	<p>3 地域産業資源を用いて行う地域産業資源活用事業を促進することにより当該地域産業資源に係る地域の経済の活性化を推進する方策</p> <p>(中 略)</p> <p>(1) 個別地域産業資源に関する施策</p> <p>① 農林水産物の振興施策</p> <p><u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>温暖な気候や肥沃な土壌など恵まれた自然条件と、農業者の創意工夫等を活かして多彩な農業生産が展開されており、米、たまねぎ、いちご、ハウスみかん、佐賀牛など、全国トップクラスの農産物の産地づくりを支援してきた。</u></p> <p>○ <u>平成18年2月には『佐賀県の「食」と「農」の振興計画』を策定し、有機栽培などの環境保全型農業を積極的に推進するとともに「食農教育」や「地産地消」、「都市農村交流」を一体的に推進する「さが“食と農”絆づくりプロジェクト」を県民協働で展開してきた。</u></p> <p>○ <u>消費者が求める農産物への「こだわり」や「機能性」などに着目した新たな品目づくりに取り組むための「キラッと光る佐賀県の特産物づくりチャレンジ事業」を実施した。</u></p> <p>○ <u>県及び農業団体等で構成する佐賀の米・麦・大豆マーケティング協議会や、“さが”農産物ブランド確立対策推進協議会を通じて、主要出荷先である東京及び大阪地区等の大都市圏を中心にテレビCMや雑誌・新聞広告等の認知度向上対策、販売店に対する販売促進活動等を実施してきた。</u></p> <p>○ <u>木材業者や製材業者等で構成される「さがの木流通管理センター」が行う、色・艶などに優れた県産天然乾燥木材「さがの木」の生産履歴管理に対して支援を実施してきた。</u></p> <p>○ <u>県産木材利用推進プロジェクト会議を組織し、木材の利用拡大を図るため「低コスト生産体制づくり」「流通・加工システムづくり」「木づかい運動の展開」「住みたい木造住宅づくり」に取り組み、低コスト間伐モデル地区の設定や高性能林業機械の利用促進に対する支援等による木材の生産拡大、また、県産乾燥木材認証制度の創設、公共事業における県産木材利用促進、県産木材の在庫情報などを供給するホームページの開設、県民を対象と</u></p>

変 更 後	変 更 前
<div data-bbox="331 584 550 638" style="border: 1px solid black; text-align: center; margin: 0 auto; width: fit-content;">削 除</div> <p>○ 「食」と「農」の絆づくり 県民に新鮮で安全・安心な県産農産物を提供する機会を増加させるため、農産物直売所や卸売市場の機能を活用するなどして、県産農産物の県内供給体制の整備を推進する。</p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>○ 競争力のある売れる農産物の生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的で安定的な生産体制を整備するとともに、特別栽培米等の生産拡大や、優良品種の導入・新品種の開発などにより、消費者・実需者から選ばれる売れる米・麦・大豆づくりを推進する。 ・ 多彩な野菜、果実等を供給できる産地づくりの強化や、特色ある産品づくりなどを進めることにより競争力があり収益性の高い園芸農業を展開する。 ・ 肥育素牛の県内自給率の向上による「佐賀牛」のブランド力の一層の強化や、家畜の改良・飼養技術の一層の向上などによる畜産物の高品質化・低コスト化などを推進する。 	<p><u>した木工教室の開催などによる木の良さの普及啓発を行い、木材の需要拡大を推進してきた。</u></p> <p>○ <u>しいたけ生産者や関係団体等で構成される「佐賀県特用林産振興対策会議」を開催し、特用林産物の振興方向について検討するとともに、生産技術及び経営管理の向上を図るため現地研修会を実施してきた。</u></p> <p>○ <u>漁場環境改善のための海底耕耘、ごみ除去、有害生物の駆除の実施や、生産力を向上させる漁場整備として藻場の造成や餌生物を増やす餌料培養礁を設置してきた。</u></p> <p>○ <u>種苗放流を中心とした栽培漁業や小型の魚介類や産卵親魚等の漁獲制限など資源管理に取り組んできた。</u></p> <p>○ <u>ノリの生産基盤の安定と省力化等を図る協業化等を推進してきた。</u></p> <p>○ <u>担い手の育成や養殖業を推進するとともに、売れる加工品づくりのための漁業者への研修等の充実や消費者との意見交換会等の支援をするなど、漁家経営の基盤強化に取り組んできた。</u></p> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 「食」と「農」の絆づくり 県民に新鮮で安全・安心な県産農産物を提供する機会を増加させるため、農産物直売所や卸売市場の機能を活用するなどして、県産農産物の県内供給体制の整備を推進する。</p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>○ 競争力のある売れる農産物の生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的で安定的な生産体制を整備するとともに、特別栽培米等の生産拡大や、優良品種の導入・新品種の開発などにより、消費者・実需者から選ばれる売れる米・麦・大豆づくりを推進する。 ・ 多彩な野菜、果実等を供給できる産地づくりの強化や、特色ある産品づくりなどを進めることにより競争力があり収益性の高い園芸農業を展開する。 ・ 肥育素牛の県内自給率の向上による「佐賀牛」のブランド力の一層の強化や、家畜の改良・飼養技術の一層の向上などによる畜産物の高品質化・低コスト化などを推進する。

変 更 後	変 更 前
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の付加価値を高めるとともに、需要の拡大を図るため、豊富で安全・安心な県産農産物を利用した多彩な加工品の開発に向け、<u>食品産業等との農商工連携の強化を推進する。</u> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀ブランドの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾において県産ハウスみかんをトップブランドに育て、これを牽引役として、トップブランドを他の県産品や台湾以外の地域にまで順次拡大させ佐賀ブランドの確立を図る。 ・ 「佐賀のり」の新たな評価基準を前面に打ち出したプロモーション活動により「佐賀海苔[®] 有明海一番」ブランドの確立を図る。 <p>② <u>本県を代表する伊万里・有田焼、唐津焼、諸富家具・建具の振興施策</u></p> <p>ア <u>伊万里・有田焼の振興施策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>高付加価値商品開発・情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>デザイン力及びマーケティング力を高め、地域産業資源である伝統技法や製造技術を融合して、消費者ニーズに適合した高付加価値商品の開発を図る。</u> ・ <u>同時に情報を効果的に発信できる商品提供手法の開発を図る。</u> ○ <u>窯業技術の高度化による時代に適合した新商品開発・用途開発</u> <p><u>長い歴史の中で培われた技術や窯業技術センターや窯業大学校に蓄積された優れた技術を基盤として現代のトレンドに適合した製品開発や用途開発を図る。</u></p> ○ <u>意欲的な事業者グループによる新商品開発・販路開拓</u> <p><u>事業者グループが、創意工夫を凝らして実施する新規性・独創性等の高い商品開発や販路開拓の取組を産地全体で推進する。</u></p> ○ <u>市場の潜在需要を喚起する業態変革</u> <p><u>蓄積された優れた技術を活用し、異業種とコラボレートすることにより、飽和期に到達したマーケットにおけるニッチ市場の開拓(観光と窯業、教育と食関連産業、介護・福祉分野と食関連産業など複数業種のコラボレートによる業態開発)を図る。</u></p> ○ <u>窯業と観光と文化を組み合わせた地域資源の創設</u> <p><u>窯業技術を生かした商業の町としての多様</u></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の付加価値を高めるとともに、需要の拡大を図るため、豊富で安全・安心な県産農産物を利用した多彩な加工品の開発や、<u>食品産業__との連携強化などを推進する。</u> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀ブランドの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾において県産ハウスみかんをトップブランドに育て、これを牽引役として、トップブランドを他の県産品や台湾以外の地域にまで順次拡大させ佐賀ブランドの確立を図る。 ・ 「佐賀のり」の新たな評価基準を設定し、それを前面に打ち出したプロモーション活動により「佐賀海苔[®] 有明海一番」ブランドの確立を目指す。 <p>② <u>伊万里・有田焼の振興施策</u> (これまでの取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>行政、地元経済団体、産地組合等が一带となった有田焼産地再生プロジェクトチームを組織し、産地が抱える問題・課題に対する解決策等を検討してきた。</u> ○ <u>伊万里・有田焼地域再生計画を策定し、厚生労働省の「地域提案型雇用創造促進支援事業(パッケージ事業)」を実施してきた。</u> <p>(今後の取組方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>デザイン力・マーケティング力の革新による高付加価値商品開発・情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>現代のスタイリングをリードする一流デザイナーやマーチャンダイズに優れた一流店舗のバイヤーのノウハウと地域産業資源である伝統技法や製造技術を融合して、消費者ニーズに適合した高付加価値商品の開発を図る。</u> ・ <u>同時に情報発信力を効果的に発信できる商品提供技法の開発を図る。</u> ○ <u>窯業技術の高度化による時代に適合した新商品開発・用途開発</u> <p><u>長い歴史の中で培われた技術や窯業技術センターや窯業大学校に蓄積された優れた技術を技術的基盤として現代のトレンドに適合した製品開発や用途開発を図る。</u></p> ○ <u>商工分離と共販制度に集約される系列支配</u>

変 更 後	変 更 前
<p><u>なサービスを創造することにより、個性的で質の高い観光と文化を構築するとともに、国際陶磁文化都市を目指す。</u></p> <p><u>イ 唐津焼の振興施策</u></p> <p>○ <u>ブランド力向上・情報発信による需要開拓</u></p> <p>平成20年7月の地域団体商標への登録を契機として、信頼性の高い伝統工芸品であるという付加価値をアピールするとともに、<u>消費者に唐津焼の知識を深めてもらうために全国各地で展示会等を開催し、PR・情報提供を行うことにより需要の掘り起こしを図る。</u></p> <p>○ <u>産学官連携による後継者・人材育成</u></p> <p><u>伝統産業の技術革新の中核となる若手人材などを対象に、地元自治体、産業界等との産学官連携により、伝統工芸技術を基礎として、シンクロトン放射光施設等の先端化学技術やマーケットイン型の経営戦略技術の融合による人材養成プログラムを実施することにより、現代の生活の中にマッチする商品を生み出せる人材の育成を図る。</u></p> <p><u>ウ 諸富家具・建具の振興施策</u></p> <p>○ <u>県産材を利用した新商品開発</u></p> <p><u>木材価格の高騰により、安定した条件での輸入材の入手が困難になってきているため、木材産地（富士大和森林組合）など関係機関とタイアップした県産材を利用した新商品の開発、販売ルートの開拓に取り組む。</u></p> <p>○ <u>大消費地への新たな販路開拓</u></p> <p><u>諸富家具の事業者の多くが中小零細企業であり、東京、大阪といった大消費地への販売経路を持たないため、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売に進出することで、新たな販路を開拓する。</u></p> <p>○ <u>意欲的な事業者グループによる新商品開発・販路開拓</u></p> <p><u>事業者グループが、創意工夫を凝らして実施する新規性・独創性等の高い商品開発や販路開拓の取組を産地全体で推進する。</u></p> <p>③ <u>その他の伝統工芸品の振興施策</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成及び商品PRの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組む</u> 	<p><u>型生産販売方式のリストラクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>商社と窯元が競争力向上とシェア拡大をめざし、自立を前提とした協力関係を構築し、新しい価値の共有に基づく商品開発・販路拡大など、世界市場に再チャレンジできる戦略的な業態変革を図る。</u> ・ <u>商慣習という因習の打破、つまり、生産と販売の分離を抑止し、真に消費者ニーズを見据えた生産販売方式を構築する。</u> <p>○ <u>市場の潜在需要を喚起する業態変革</u></p> <p><u>業態開発によって新たな事業を生み出すポテンシャルを活用し、飽和期に到達したマーケットにおけるニッチ市場の開拓（観光と窯業、教育と食関連産業、介護・福祉分野と食関連産業など複数業種のコラボレートによる業態開発）を図る。</u></p> <p>○ <u>窯業技術の研究開発テーマの共有等による広域交流と市場経済動向を見据えた情報革命</u></p> <p><u>産地全体を牽引する技術開発・新商品開発を共有し、ボトムアップを図る。また、マーケットの情報収集・分析力を発揮できる組織・団体の迅速な意思決定により新事業への挑戦を中長期的に持続する。</u></p> <p>○ <u>窯業と観光と文化を組み合わせた地域資源の創設</u></p> <p><u>窯業技術を生かした商業の町としての多様なサービスを創造することにより、個性的で質の高い観光と文化を構築するとともに、国際陶芸文化都市を目指す。</u></p> <p>③ <u>唐津焼の振興施策</u></p> <p><u>（これまでの取組状況）</u></p> <p>○ <u>技術の伝承</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>唐津焼それぞれの窯元では、伝統的技術・技法を守りながらも、技術の研鑽などに努めている。</u> ・ <u>組合では、各地での作品展をはじめとする消費者の動向把握、新規市場の開拓を行うとともに、たしかな技術を後世に伝えるため若手作家を対象とした技術研修を行っている。</u> ・ <u>唐津焼をより身近なものと感じてもらうため、地元の子供たちに対する陶芸の体験学習といったPR活動など地域貢献にも積極的に取り組んでいる。</u> <p><u>（今後の取組方針）</u></p> <p>○ <u>需要開拓と後継者育成</u></p>

変 更 後	変 更 前
<p><u>とともに、異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>魅力ある新商品の開発と合わせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組む。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売により新たな需要開拓を図る。</u> ・ <u>伝統工芸品をより身近なものとするため、市や町のイベント等での展示販売や地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組む。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために若手作家への技術指導を行う。</u> 	<p><u>陶磁器をはじめとして伝統的工芸品産業を取り巻く最近の状況は、海外からの低価格商品の流入、個人消費の低迷や生活様式の多様化、後継者不足など大変厳しい状況が続いているが、唐津焼の振興のため今後も組合を中心に県、市、関係機関が一丸となって需要開拓、後継者育成に取り組んでいく。</u></p> <p>④ <u>諸富家具・建具の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新商品開発による販路開拓等支援</u> <u>国産材、県産材を利用した子供向け机、椅子、玩具等の開発・販路開拓等に対する支援を実施してきた。(デザイン技術高度化支援事業、全国展開支援事業、活路開拓事業など)</u> ○ <u>産地再生プロジェクトチーム</u> <u>産地、行政、その他関係機関が一体となり、産地再生プロジェクトチームを組織し、産地(企業)が抱える問題の解決についてアンケート調査、ヒアリング、対策会議等を実施してきた。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>県産材を利用した新商品開発</u> <u>木材価格の高騰により、安定した条件での輸入材の入手が困難になって来ている。木材産地(富士大和森林組合)など関係機関とタイアップした県産材を利用した新商品の開発、販売ルートの開拓に取り組む。</u> ○ <u>大消費地への新たな販路開拓</u> <u>諸富家具の事業者の多くが中小零細企業であり、東京、大阪といった大消費地への販売経路を持たないのが現実である。初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ○ <u>産地の組織化</u> <u>諸富には、メーカー、資材業者、部材加工業者など様々な業種の事業者がいる。それぞれの事業者が有機的なつながりを持つ、バーチャル組織を組織し、受注・生産・輸送・クレーム対応などを一括して行うことにより、産地がひとつの組織として機能できるようにする。</u> <p>⑤ <u>肥前びーどろの振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>技術の伝承と商品PR</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>肥前びーどろを製作している事業所では、</u>

変 更 後	変 更 前
	<p><u>伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などに取り組んでいる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターにおいて展示会を行うなど、肥前びーどろのPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成及び商品PRの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>県内の製造業の工場から、これまで産業廃棄物として処分されていた不良品の提供を受け、自社の硝子製造・加工の技術によりリサイクルし、新たな商品づくりに取り組んでいく。</u> ・ <u>海外からの低価格商品や国内他産地の製品と差別化を図るため、伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>硝子製品という括りにとらわれず、陶磁器、木製品、金属製品、食品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発と合わせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え守っていくため、自社の若手社員への技術教育を行うとともに、肥前びーどろをより身近なものと感じてもらうため、定期的に硝子製品の製作体験教室を開催するなど、PR活動にも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>近隣の神崎市と吉野ヶ里町には、全国的にも有名な吉野ヶ里遺跡があり、毎年、多くの修学旅行生が訪れている。近年、修学旅行のテーマとして体験学習を行う学校が増えている点に注目し、遺跡から出土した硝子の管玉などを当時と同じ作り方で作るなどの体験工房を実施する。</u> <p>⑥ <u>鹿島錦の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>技術の伝承、PR・広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>昭和43年、鹿島錦の保存・活用を図り、美術文化の向上を目的に鹿島錦保存会が設立された。</u>

変 更 後	変 更 前
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鹿島錦保存会により、鹿島錦の織り方教室が実施されており、会員は55名を超えている。</u> ・ <u>保存会の事務局を置く祐徳博物館での常設展示や、県内外での展示会の開催など、鹿島錦のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鹿島錦の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>織り方教室を継続していくとともに、鹿島錦をより身近なものと感じてもらうため、地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> <p>⑦ <u>佐賀錦の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>技術の伝承、PR・広報</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>平成5年、佐賀錦の伝統的技術、技法の継承と伝統的産業としての確立を目的に佐賀錦振興協議会が設立された。</u> ・ <u>佐賀錦振興協議会により、佐賀錦の織り方教室が実施されており、会員は160名を超えている。</u> ・ <u>県内外で展示会を開催するなど、佐賀錦のPRに取り組んでいる。</u> ・ <u>佐賀市の支援を受け、佐賀市歴史民族館で佐賀錦の製作実演を行い、佐賀錦のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>佐賀錦の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u>

変 更 後	変 更 前
	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>織り方教室を継続していくとともに、佐賀錦をより身近なものと感じてもらうため、地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> <p>⑧ <u>白石焼の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>技術の伝承、PR・広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>昭和60年に「白石焼」の商標登録を行っている。</u> ・ <u>昭和63年、白石焼の振興・発展を目的に白石焼協同組合が設立された。平成19年に白石焼陶器組合と団体名を変更して活動を行っている。</u> ・ <u>陶器祭りの開催、陶磁器の製作体験、地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターでの展示会など白石焼のPRを行っている。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>白石焼の伝統的な技術・技法を活かしたつもの、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>織物製品、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>町イベント等での展示販売や陶器まつりの開催、子ども達への製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために若手作家への技術指導を行っている。</u> <p>⑨ <u>名尾手漉和紙の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p>

変 更 後	変 更 前
	<p>○ <u>技術の伝承、PR・広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>名尾手漉和紙を製作している事業所では、伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などにも取り組んでいる。</u> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターで展示会を行うなど、名尾手漉和紙のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>名尾手漉和紙の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>名尾手漉和紙をより身近なものと感じてもらうため、佐賀市のイベント等での展示販売や地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために自社の若手社員への技術指導を行っていく。</u> <p>⑩ <u>鍋島緞通の振興施策</u></p> <p><u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>技術の伝承、PR・広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鍋島緞通を製作している事業所では、伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などにも取り組んでいる。</u> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターや自社ギャラリーなどで展示会を行うなど、鍋島緞通のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鍋島緞通の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u>

変 更 後	変 更 前
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>鍋島緞通をより身近なものと感じてもらうため、佐賀市のイベントでの展示や自社ギャラリーなどで展示会を行うなど、鍋島緞通のPRに取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために自社の若手社員への技術指導を行っていく。</u> <p>⑪ <u>西川登竹細工の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>技術の伝承、PR・広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>西川登竹細工を製作している事業所では、伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などにも取り組んでいる。</u> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターで展示を行うなど、西川登竹細工のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>新商品開発、販路開拓、後継者育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>西川登竹細工の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>西川登竹細工をより身近なものと感じてもらうため、武雄市のイベント等での展示などを行うとともに、地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために若手作家への技術指導を行っていく。</u>

変 更 後	変 更 前
	<p>⑫ 浮立面の振興施策</p> <p><u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ 技術の伝承、PR・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>浮立面を製作している事業所では、伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などにも取り組んでいる。</u> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターで展示を行うなど、浮立面のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 新商品開発、販路開拓、後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>浮立面の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>浮立面をより身近なものと感じてもらうため、鹿島市のイベント等での展示などを行うとともに、地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくため若手作家への技術指導を行っていく。</u> <p>⑬ 弓野人形の振興施策</p> <p><u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ 技術の伝承、PR・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>弓野人形を製作している事業所では、伝統的な技術・技法を守りながら、現代の生活様式にあった新しい製品の製作などにも取り組んでいる。</u> ・ <u>地元の物産を展示販売している佐賀県産業振興センターで展示を行うなど、弓野人形のPRに取り組んでいる。</u> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 新商品開発、販路開拓、後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>弓野人形の伝統的な技術・技法を活かしつつも、現代の生活様式にあった新商品の開発に取り組んでいく。</u>

変 更 後	変 更 前
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">削 除</p> <p>④ 農水産物加工品の振興施策</p> <p>○ 県産農水産物加工品が大都市圏の百貨店・高質スーパーなどの小売店で定番で取り扱ってもらい、より多くの消費者に購入してもらおうことを目指して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発力、品質管理及び販売方針等を主なテーマに、専門家のアドバイスを通じた県内事業者のスキルアップを目指す「事業者育成セ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>陶磁器、木製品、金属製品など異業種と連携した新商品の開発も視野に入れていく。</u> ・ <u>魅力ある新商品の開発とあわせて、全国規模の見本市への出展など新たな販路の開拓に取り組んでいく。また、初期投資が少なく、経営リスクも低い通信販売やインターネット販売にも取り組んでいく。</u> ・ <u>弓野人形をより身近なものと感じてもらうため、武雄市のイベント等での展示などを行うとともに、地元の子供たちに対する製作体験学習といったPR活動などにも積極的に取り組んでいく。</u> ・ <u>伝統の技術・技法を伝え、守っていくために若手作家への技術指導を行っていく。</u> <p>⑭ 農水産物加工品の振興施策 (これまでの取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>平成5年に県内の伝統的な工芸品や食品を対象にした県独自の指定制度「佐賀県指定伝統的地場産品制度」を創設し、食品として「小城羊羹」、「神埼そうめん」、「嬉野茶」の3産品を指定した。</u> ○ <u>これまでに産地振興支援として、産地組合が開催する大都市圏等の百貨店などにおけるフェアの開催などの需要開拓事業に対する補助などを行ってきた。</u> ○ <u>また、平成16年度に佐賀県が主体となって、佐賀県原産地呼称管理制度を創設し、制度を運営するために「佐賀県原産地呼称管理委員会」を設置し、佐賀県酒造組合、県内蔵元の協力により、平成19年9月までに6回の認定審査会を開催し、現在のところ82銘柄を認定している。</u> ○ <u>これまで、原産地呼称管理制度のPRとともに、平成19年度からは県内の大型ショッピングセンター内に認定酒コーナーを常時設置し、佐賀の地酒のPRを実施してきた。</u> <p>(今後の取組方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県産農水産物加工品が大都市圏の百貨店・高級スーパーなどの小売店で定番で取り扱ってもらい、より多くの消費者に購入してもらおうことを目指して、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発力、品質管理及び販売方針等を主なテーマに、専門家のアドバイスを通じた県内事業者のスキルアップを目指す「事業者育成セミナー」を開催する。

変 更 後	変 更 前
<p>ミナー」を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元県内に大都市圏・福岡都市圏などから百貨店バイヤー、卸営業を招いた商談会を開催し、県内企業にバイヤーなどとの商談機会を提供する。 ・ 首都圏などで開催される大規模な食品の総合見本市に佐賀県としてブースを設けたり、大手卸主催の見本市に県産品を投入することで、県内企業に数多くのバイヤー・営業員との商談機会を提供する。 ・ 首都圏に専任職員を配置し、問屋機能を有する卸売企業への県産品の商品提案や情報収集を行うことで、県内企業（商品）が販売先である卸や百貨店・高質スーパーなどへの営業をかける際の支援を行い、販売力を強化する。 ・ 大都市圏での高質スーパー、百貨店及びレストランなどにおいて、テスト販売の場としてフェアを開催し、卸、店舗、消費者等の反応、評価を把握し、定番化に向けた商品改良、流通開拓に取り組む。 <p>など、県内企業への支援を積極的に推進していく。</p> <p>⑤ 清酒（日本酒）及び焼酎の振興施策</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">削 除</div> <p>○ 認定品のブランド価値を高める取組を重点的に行っていくため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏や福岡等での酒類販売店や高級食品店等での取り扱い促進 ・ 県内酒類販売店や飲食店、旅館等への取扱促進 ・ マスメディアへのパブリシティ活動や県広報を活用したPRを実施するなど、酒造会社等と連携して、制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元県内に大都市圏・福岡都市圏などから百貨店バイヤー、卸営業を招いた商談会を開催し、県内企業にバイヤーなどとの商談機会を提供する。 ・ 首都圏などで開催される大規模な食品の総合見本市に佐賀県としてブースを設けたり、大手卸主催の見本市に県産品を投入することで、県内企業に数多くのバイヤー・営業員との商談機会を提供する。 ・ 首都圏に専門職員を配置し、問屋機能を有する卸売企業への県産品の商品提案や情報収集を行うことで、県内企業（商品）が販売先である卸や百貨店・高級スーパーなどへの営業をかける際の支援を行い、販売力を強化する。 ・ 大都市圏での高級スーパー、百貨店及びレストランなどにおいて、テスト販売の場としてフェアを開催し、卸、店舗、消費者等の反応、評価を把握し、定番化に向けた商品改良、流通開拓に取り組む。 <p>など、県内企業への支援を積極的に推進していく。</p> <p>⑬ 清酒（日本酒）及び焼酎の振興施策 <u>（これまでの取組状況）※「⑭ 農水産物加工品の振興施策」の一部再掲</u></p> <p>○ <u>平成16年度に佐賀県が主体となって、佐賀県原産地呼称管理制度を創設し、制度を運営するために「佐賀県原産地呼称管理委員会」を設置し、佐賀県酒造組合、県内蔵元の協力により、平成19年9月までに6回の認定審査会を開催し、現在のところ82銘柄を認定している。</u></p> <p>○ <u>これまで、原産地呼称管理制度のPRとともに、平成19年度からは県内の大型ショッピングセンター内に認定酒コーナーを常時設置し、佐賀の地酒のPRを実施してきた。</u></p> <p><u>（今後の取組方針）</u></p> <p>○ 認定品のブランド価値を高める取組を重点的に行っていくため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏や福岡等での酒類販売店や高級食品店等での取り扱い促進 ・ 県内酒類販売店や飲食店、旅館等への取扱促進 ・ マスメディアへのパブリシティ活動や県広報を活用したPRを実施するなど、酒造会社等と連携して、制

変 更 後	変 更 前
<p>PR、認定品の企画商品の開発、販売促進等を通して、ブランド化を図っていく。</p> <p>⑥ 醤油の振興施策</p> <div data-bbox="285 607 507 665" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">削 除</div> <p>○ _____醤油業者の育成・指導を行うとともに、佐賀県醸造研究会(醤油業者の若手が会員)への支援による後継者の育成・指導等を通して、新製品開発及び品質の向上・安定化を図っていく。</p> <div data-bbox="300 1541 521 1599" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">削 除</div>	<p>度PR、認定品の企画商品の開発、販売促進等を通して、ブランド化を図っていく。</p> <p>⑩ 醤油の振興施策 (これまでの取組状況)</p> <p>○ <u>昭和62年度から3ヵ年佐賀県味噌醤油醸造協同組合が国の補助事業の技術高度化対策事業において、バイオリクターによる醤油の連続生産技術の開発について研究を実施したことから、本県では、この補助事業に助言・協力を行った。また、平成3年度から先端重要技術研究開発事業に取り組み、同組合の単独事業としてのバイオリクターの高効率化に貢献してきた。</u></p> <p>○ <u>平成14年度からは醤油の新製品開発に協力し、「元気」や「佐賀の生しょうゆ」(組合の共通ブランドしょうゆ)の開発、ラベルデザインに協力・助言するとともに、販売促進策についても協力・助言を行ってきた。</u></p> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 今後とも、醤油業者の育成・指導を行うとともに、佐賀県醸造研究会(醤油業者の若手が会員)への支援による後継者の育成・指導等を通して、新製品開発及び品質の向上・安定化を図っていく。</p> <p>⑪ 肥前刃物の振興施策 (これまでの取組状況)</p> <p>○ <u>佐賀県鍛冶工業組合と佐賀県の共催で佐賀県刃物コンクールを開催し、技術力の向上と佐賀県の鍛冶製品(包丁、鎌、鋏等)のPRを行った。</u></p> <p>○ <u>佐賀県鍛冶工業組合及び佐賀県工業技術センターにより刃物研究会を組織し、刃物製造工程である鍛造、熱処理、刃付けの各工程における金属組織の変化と刃先角度を調べ、刃こぼれが少なく、切れ味が長続きする刃物製造条件を検討した。また、国家検定試験である技能検定試験において、鍛冶工業組合員が一般熱処理の種目で一級技能士の資格を取得した。</u></p> <p>○ <u>佐賀県工業技術センターは試験分析や製造現場における技術支援を行い、新製品の開発における刃物素材、熱処理方法の提案を行ってきた。併せて、紙裁断機、木工加工機等に使用する機械刃物におけるろう付方法および条件の開発支援、並びに製造工程レイアウト</u></p>

変 更 後	変 更 前
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 5px;">削 除</p> <p>⑦ 自動車部品の製造に係る振興施策</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 5px;">削 除</p> <p>○ 重点支援チームによる企業支援</p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>○ 人材の確保・育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の量的確保支援 <ul style="list-style-type: none"> 工業高校生の企業での就業体験、企業関係者による教育訓練機関での講義、教員の県内企業への派遣研修などを拡充することにより、工業高校等の生徒及び教員の県内企業に対する理解を深めてもらい、新卒者の県内就職率の向上を図る。 また、県外の人材に対する情報発信や専 	<p style="text-align: center;"><u>の改良など様々な提案、支援を行ってきた。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>岐阜の関、高知の土佐山田、新潟の燕三条等との産地競争を勝ち抜くため、また、安価な中国等からの輸入品に対抗するため、これまでに蓄積した刃物製造に係る鍛造、熱処理等の技術を活用した新規分野（海洋、レジャー等）向けの高付加価値新商品開発において、金属工学による製造技術支援、人間工学によるデザイン設計支援、品質工学によるコスト削減支援などを展開していく。</u></p> <p>⑱ 自動車部品の製造に係る振興施策</p> <p style="text-align: center;"><u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>下請中小企業の安定的な取引機会の確保と販路開拓を支援するため、財団法人佐賀県地域産業支援センターに相談窓口を設けて下請取引の円滑化を推進しており、特に17年度からは自動車関連産業における取引の拡大を図るため、自動車産業関連の情報収集を一層強化するとともに、適切な企業の紹介や取引のあっせんに取り組んでいる。</u></p> <p>○ <u>また、17年度以降、自動車関連の一次部品メーカーや新たな進出企業を対象とした商談会を開催した。</u></p> <p>○ <u>県内企業を中心に18年10月に設立した「佐賀県自動車産業振興会」の事務局や連携機関として、自動車産業の振興を推進してきた。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 重点支援チームによる企業支援</p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>○ 人材の確保・育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の量的確保支援 <ul style="list-style-type: none"> 工業高校生の企業での就業体験、企業関係者による教育訓練機関での講義、教員の県内企業への派遣研修などを拡充することにより、工業高校等の生徒及び教員の県内企業に対する理解を深めてもらい、新卒者の県内就職率の向上を図る。 また、県外の人材に対する情報発信や専任アドバイザーによるUターン就職支援

変 更 後	変 更 前
<p>任アドバイザーによるUターン就職支援や、中途退職者の職業訓練などによる就業促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた技術者の育成支援 <p>工業高校における技能教育の充実、産業技術学院における自動車産業向け在職者訓練の実施、企業の技術者が大学等で研修を受講する場合の助成、佐賀大学との連携による「ものづくり技術者育成講座」の実施により、工業高校生や在職者の技術レベルの向上を図る。</p> 産学官による自動車人材育成ネットワークの形成 <p>上記の人材確保・育成支援を実施していくために、産学官連携・協働による連絡体制（協力体制）を構築する。</p> <div data-bbox="331 936 550 987" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">削 除</div> <p>⑧ ファインセラミックスの生産に係る振興施策</p> <div data-bbox="316 1563 534 1615" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">削 除</div>	<p>や、中途退職者の職業訓練などによる就業促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた技術者の育成支援 <p>工業高校における技能教育の充実、産業技術学院における自動車産業向け在職者訓練の実施、企業の技術者が大学等で研修を受講する場合の助成、佐賀大学との連携による「ものづくり技術者育成講座」の実施により、工業高校生や在職者の技術レベルの向上を図る。</p> 産学官による自動車人材育成ネットワークの形成 <p>上記の人材確保・育成支援を実施していくために、産学官連携・協働による連絡体制（協力体制）を構築する。</p> <p>○ <u>新製品、新技術支援</u> <u>研究開発費の一部を助成し、革新性の高い新技術や新製品の開発を促進する。</u></p> <p>○ <u>経営支援</u> <u>設備投資費の一部を助成し、地場企業が自動車関連企業との取引拡大又は新規参入するための設備投資を促進する。</u></p> <p>⑨ ファインセラミックスの生産に係る振興施策 <u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>次世代エネルギーの代表である燃料電池、その中でも固体酸化物形燃料電池（SOFC）は電解質にファインセラミックスが使われ、発電効率が他の燃料電池に比べ高いこと、また、多様な燃料が可能となることなどから、業務用から家庭用まで幅広い利用が期待されている。</u></p> <p>○ <u>本県には、400年の伝統を有する伊万里・有田焼の産地を抱え、その周辺では焼き物の焼成技術を活かしたファインセラミックスの高度な生産技術が生まれ、東海地方に次ぐ生産地となっている。</u></p> <p>○ <u>本県では、燃料電池関連産業を次世代の重要な産業として位置づけ、平成17年度からは、燃料電池関連部材として、ファインセラミックスの活用ができるかどうかの可能性調査や燃料電池に使用されるファインセラミックス部品の量産化技術開発に対する支援を行っている。</u></p> <p>○ <u>平成19年度からは、新エネルギーに特化した研究開発等の支援、県内企業の特徴的な</u></p>

変 更 後	変 更 前
<p>○ 水素・燃料電池関連分野の産業を新たに創出するためには、核となる複数の企業と部品提供ができる多くの協力企業を育成する必要がある。そのために、中核となり得る県内企業の育成や県外からの企業誘致を軸に事業展開を実施していく。</p> <p>⑨ 観光等の振興施策</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">削 除</div> <p>○ 観光客に「選ばれる佐賀県」の実現を目指し、市町や観光事業者と一体となって、観光地の磨き上げや受入体制の充実など、ハード・ソフト・人の磨き上げに取り組んでいく。</p> <p>○ 国内大都市圏や東アジア等からの観光客誘致については、広域的な取組が有効であるた</p>	<p><u>技術が活かせる研究開発への支援、優れた技術を有する県内企業の支援、燃料電池補機プロジェクトに取り組もうとする企業への支援など、引き続き、燃料電池をはじめとする新エネルギー関連分野の研究・技術開発を支援し、将来への足がかりを築いていくこととしている。</u></p> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ 水素・燃料電池関連分野の産業を新たに創出するためには、核となる複数の企業と部品提供ができる多くの協力企業を育成する必要がある。そのために、中核となり得る県内企業の育成や県外からの企業誘致を軸に事業展開を実施していく。</p> <p>⑳ <u>観光等の振興施策</u> <u>(これまでの取組状況)</u></p> <p>○ <u>平成16年度から平成18年度までの3年間、市町村や団体、事業者等と一体となって観光地の磨き上げ、観光客の誘致拡大を図るため「観光さが魅力アップキャンペーン」を展開してきた。</u></p> <p><u>具体的には</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>観光地の魅力アップに取り組む地域住民や団体の支援</u> ・ <u>旅行会社への商品造成の働きかけ（説明会・視察会の開催、個別セールス）</u> ・ <u>県内外への観光情報の発信</u> ・ <u>ホテルや旅館の従業員を対象としたマナーアップ研修会や観光ガイドのレベルアップを図るための研修会など受入体制の整備などの事業を実施してきた。</u> <p>○ <u>また、本県の温泉、歴史、文化、自然、街並み・景観、イベントなどの資源や財産を活用し、その価値の磨き上げや情報発信を行いながら、観光客の誘致等に取り組んできた。</u></p> <p><u>(今後の取組方針)</u></p> <p>○ <u>これまでの3年間の取組をさらに推進していくため平成19年度から平成21年度までの3年間、「ウェルカム佐賀キャンペーン」を展開していく。</u></p> <p>○ <u>これまでの取組を継続していくとともに、全国高校総体の本県での開催（平成19年）を契機としたホスピタリティ（おもてなしの心）</u></p>

変 更 後	変 更 前
<p><u>め、九州観光推進機構の取組も活かしながら、本県独自で九州の中の佐賀県を強く国内外にアピールする。</u></p> <p>(2) 関連する施策（地域産業資源の活用に関わらず利用可能な施策）</p> <p>中小企業は経営資源が限られており、原材料価格の高騰など外的要因の変化に対して、自助努力のみでは対応が難しいため、今後とも、きめ細かな支援を行い、地域経済の活性化に努めていく必要がある。</p> <p>そのため、県では、佐賀県地域産業支援センターや商工会等の中小企業関係団体、県工業技術センター等の試験研究機関等が互いに連携を図りながら、地域産業資源を活用した新商品や新たなサービスの開発、中小企業の新分野への進出や経営基盤の強化のほか、本県が全国に先駆けて実施したトライアル発注事業の全国ネットワーク化などによる一層の販路開拓の支援など、県内中小企業の多様なニーズに対応した中小企業対策を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">削 除</div> <p>① 多様な相談に対する総合的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 財団法人佐賀県地域産業支援センターにおいては、創業・ベンチャー、経営革新を目指す中小企業者等が、経営ノウハウや人材等のソフト面の経営資源を円滑に確保できるようにワンストップサービスを提供し、また、中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律に基づく中核的支援機関として、佐賀県工業技術センターをはじめとする新事業支援機関と連携して、次のような支援活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マネージャーの設置、窓口相談の実施、専門家の派遣、ベンチャー交流ネットワーク(異業種交流)の開催、<u>ICT利活用による経営力向上の支援</u> など <p style="text-align: center;">(中 略)</p>	<p><u>の充実や外国人観光客の誘致促進のための環境整備などに取り組んでいく。</u></p> <p>(2) 関連する施策（地域産業資源の活用に関わらず利用可能な施策）</p> <p>中小企業は経営資源が限られており、原材料価格の高騰など外的要因の変化に対して、自助努力のみでは対応が難しいため、今後とも、きめ細かな支援を行い、地域経済の活性化に努めていく必要がある。</p> <p>そのため、県では、佐賀県地域産業支援センターや商工会等の中小企業関係団体、県工業技術センター等の試験研究機関等が互いに連携を図りながら、地域産業資源を活用した新商品や新たなサービスの開発、中小企業の新分野への進出や経営基盤の強化のほか、本県が全国に先駆けて実施したトライアル発注事業の全国ネットワーク化などによる一層の販路開拓の支援など、県内中小企業の多様なニーズに対応した中小企業対策を実施することとする。</p> <p><u>なお、当県の平成20年度の主な中小企業支援施策は、次のとおりである。</u></p> <p>(平成20年度施策)</p> <p>① 多様な相談に対する総合的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 財団法人佐賀県地域産業支援センターにおいては、創業・ベンチャー、経営革新を目指す中小企業者等が、経営ノウハウや人材等のソフト面の経営資源を円滑に確保できるようにワンストップサービスを提供し、また、中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律に基づく中核的支援機関として、佐賀県工業技術センターをはじめとする新事業支援機関と連携して、次のような支援活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マネージャーの設置、窓口相談の実施、専門家の派遣、ベンチャー交流ネットワーク(異業種交流)の開催_____など <p style="text-align: center;">(中 略)</p>

変 更 後	変 更 前
<p>② 研究開発のための支援</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 10px auto; text-align: center; padding: 5px;">削 除</div> <p>(新製品・新技術等に対する研究開発支援)</p> <p>○ <u>財団法人佐賀県地域産業支援センターにおいて、県内中小企業等が行う次世代の本県経済をリードする分野における既存技術の高度化、新技術の開発、デザイン開発、試作品開発等の事業に対して支援する。</u></p> <p>(産学官共同研究への支援)</p> <p>○ <u>県内企業の技術革新や新事業の創出につなげるため、産学官のチームを形成し、ニーズの掘り起こしから、大学等の研究成果の橋渡し、研究開発、販路開拓までを見据えた一貫支援を行う。</u></p> <p>(新エネルギー関連分野に対する研究開発支援等)</p> <p>○ <u>佐賀県内の知的資源や技術等が活用できる新エネルギー分野に特化した新エネルギー関連産業集積プロジェクト事業として、県内企業が行う技術開発や大学等との共同研究を支援する。</u></p> <p>○ <u>今後、県内に新エネルギー関連産業の集積（県内企業の育成、県外企業の誘致）を進めるには、研究開発支援とあわせ、工業系高校生を対象とした人材育成や燃料電池自動車の展示や試乗会等の普及啓発などを総合的に実施していく。</u></p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>③ 販路拡大のための支援</p>	<p>② 研究開発のための支援</p> <p><u>(事業化に向けた研究開発支援)</u></p> <p>○ <u>先端分野を中心とした新事業の創出を早期かつ確実に推進するため、既に基礎研究段階を終えた新規の技術やノウハウを有する個人・企業等に対し、事業化に向けた研究開発等を支援する。</u></p> <p><u>(新製品・新技術_に対する研究開発支援)</u></p> <p>○ <u>県内に事業所を有する中小企業等が行う新技術の開発、製品の開発・試作に関する研究、品質・生産性の向上に関する研究、ソフトウェア・システムの開発に関する研究等の事業に対して補助する。</u></p> <p><u>また、財団法人佐賀県地域産業支援センターに地域中小企業応援基金を創設し、中小企業の新産業分野等における新製品開発を支援する。</u></p> <p>(産学官共同研究への支援)</p> <p>○ <u>産学官による共同研究体から佐賀県経済をリードするものとして戦略的に選択した産業分野における革新的研究テーマを公募し、優秀な提案に対して支援する。</u></p> <p>(新エネルギー関連分野に対する研究開発支援_)</p> <p>○ <u>佐賀県内の知的資源や技術等が活用できる新エネルギー分野に特化した先導的研究開発を支援する。</u></p> <p>○ <u>新エネルギー関連分野に既に進出している企業のうち、売上高が数億円から50億円程度の企業を対象に、売上高10倍または100億円に挑戦しようとする企業を募集し、新エネルギー分野の研究開発等を支援する。</u></p> <p style="text-align: center;">(中 略)</p> <p>③ 販路拡大のための支援</p> <p><u>(大都市圏での新製品・新技術等の販路開拓)</u></p>

変 更 後	変 更 前
<p>(大都市圏での新製品・新技術等の販路開拓)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内中小企業等が開発した製品等について、県の機関が試験的に発注し、また、使用後は当該製品等の有用性を評価し、官公庁での受注実績をつくることにより、県内中小企業等の販路開拓を支援する。 ○ <u>財団法人佐賀県地域産業支援センターにおいて、県内中小企業等が自ら開発した新製品・新技術等を県外で開催される見本市等に出展する場合に、その出展経費の一部を補助することによって、新たな市場を切り開こうとする県内中小企業等を支援する。</u> <u>また、中小企業等の営業力強化のための研修を実施する。</u> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">削 除</div> <p>(大都市圏での県産品の営業支援・販路拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県産品の販路開拓を推進するとともに、県内事業者の販売力と商品力を高めるため、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内事業者の東京、大阪等の大都市圏での県産品販売に係る営業力を強化するために、首都圏に専任職員を配置し、卸売企業への県産品の商品提案や情報収集を行うなど、県内事業者の営業活動のサポートを行う。 ・ 県内事業者を対象に、「事業者育成セミナー」を開催し、専門家等によるアドバイス等を通じて、商品開発力、品質管理及び販売方針等を主なテーマに、県内事業者のスキルアップを目指す。 ○ 大都市圏の百貨店、小売店において、県産品の販路拡大と情報発信の場を確保し、県産品の認知度及びポジショニングを高めるとともに、定番商品としての取扱を目指すため、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県産品の販路開拓を促進するため、県内中小企業者と大都市圏の卸や百貨店等バイヤーとの商談会の開催と全国見本市への出展を支援する。 ・ 大都市圏での高質スーパー、百貨店及びレストランなどにおいて、テスト販売 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内中小企業等が開発した製品等について、県の機関が試験的に発注し、また、使用後は当該製品等の有用性を評価し、官公庁での受注実績をつくることにより、県内中小企業等の販路開拓を支援する。 ○ <u>県内中小企業等が自ら開発した新製品・新技術等を県外で開催される見本市等に出展する場合に、その出展経費の一部を補助することによって、新たな市場を切り開こうとする県内中小企業等を支援する。</u> <u>また、財団法人佐賀県地域産業支援センターに地域中小企業応援基金を創設し、中小企業の新産業分野等における新製品の販路開拓を支援する。</u> ○ <u>環境関連の見本市に窯業技術センターの研究成果や県有特許光触媒利用企業の製品を出展することで、環境先進県佐賀をアピールするとともに、県内中小企業の販路開拓を支援する。</u> <p>(大都市圏での県産品の営業支援・販路拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県産品の販路開拓を推進するとともに、県内事業者の販売力と商品力を高めるため、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内事業者の東京、大阪等の大都市圏での県産品販売に係る営業力を強化するために、首都圏に専門職員を配置し、卸売企業への県産品の商品提案や情報収集を行うなど、県内事業者の営業活動のサポートを行う。 ・ 県内事業者を対象に、「事業者育成セミナー」を開催し、専門家等によるアドバイス等を通じて、商品開発力、品質管理及び販売方針等を主なテーマに、県内事業者のスキルアップを目指す。 ○ 大都市圏の百貨店、小売店において、県産品の販路拡大と情報発信の場を確保し、県産品の認知度及びポジショニングを高めるとともに、定番商品としての取扱を目指すため、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県産品の販路開拓を促進するため、県内中小企業者と大都市圏の卸や百貨店等バイヤーとの商談会の開催と全国見本市への出展を支援する。 ・ 大都市圏での高級スーパー、百貨店及びレストランなどにおいて、テスト販売の場としてフェアを開催し、卸、店舗、

変 更 後	変 更 前
<p>の場としてフェアを開催し、卸、店舗、消費者等の反応、評価を把握し、県内事業者へフィードバックをすることで、定番化に向けた商品改良、流通開拓を支援する。</p> <p><u>(下請中小企業の取引拡大)</u></p> <p>○ <u>財団法人佐賀県地域産業支援センターにおいて、県内下請中小企業を対象とした受発注商談会の開催、個別マッチングなどの取引あっせんを行うことにより、県内中小企業の取引先確保や販路開拓を支援する。</u></p> <p>④ 経営基盤の強化のための支援</p> <p>(中 略)</p> <p>(経営革新に対する支援)</p> <p>○ 経営革新計画の承認を行うとともに、承認後の企業の取組みのフォローアップを行い、中小企業等の創意ある向上発展を図る。</p> <p><u>(生産の基盤づくりに対する支援)</u></p> <p>○ <u>財団法人佐賀県地域産業支援センターにものづくり技術アドバイザーを配置し、県内中小企業等が抱えている経営・技術等の課題について、現場での指導助言を行なう。</u></p> <p>(経営安定化等に対する支援)</p> <p>○ 中小企業者の経営の合理化、安定強化を図るために低利融資を行う。また、中小企業者の特定施策の推進について低利融資を行う。</p> <p>(中 略)</p> <p>⑤ 海外事業展開のための支援 (国際経済活動に対する支援)</p> <p>○ 貿易投資総合情報のデータベースを活用し、専門の相談員による質の高い情報提供・相談サービスを行い、地域産業、企業</p>	<p>消費者等の反応、評価を把握し、県内事業者へフィードバックをすることで、定番化に向けた商品改良、流通開拓を支援する。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <p>④ 経営基盤の強化のための支援</p> <p>(中 略)</p> <p>(経営革新に対する支援)</p> <p>○ 経営革新計画の承認を行うとともに、承認後の企業の取組みのフォローアップを行い、中小企業等の創意ある向上発展を図る。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <p>(経営安定化等に対する支援)</p> <p>○ 中小企業者の経営の合理化、安定強化を図るために低利融資を行う。また、中小企業者の特定施策の推進について低利融資を行う。</p> <p>(中 略)</p> <p>⑤ 海外事業展開・情報化のための支援 (国際経済活動に対する支援)</p> <p>○ 貿易投資総合情報のデータベースを活用し、専門の相談員による質の高い情報提</p>

変 更 後	変 更 前
<p data-bbox="225 248 600 282">の国際ビジネスの促進を図る。</p> <div data-bbox="316 331 536 387" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">削 除</div>	<p data-bbox="906 248 1458 315">供・相談サービスを行い、地域産業、企業の国際ビジネスの促進を図る。</p> <p data-bbox="863 320 1262 353"><u>(情報化への対応に対する支援)</u></p> <p data-bbox="879 356 1458 461">○ <u>情報化に関する課題を有する県内企業に対し、専門家が企業を訪問し、アドバイスを実施する。</u></p>